

ふくいメディカルネット + ふくいみまもりSNSとは

＜ふくい医療情報連携システム＞

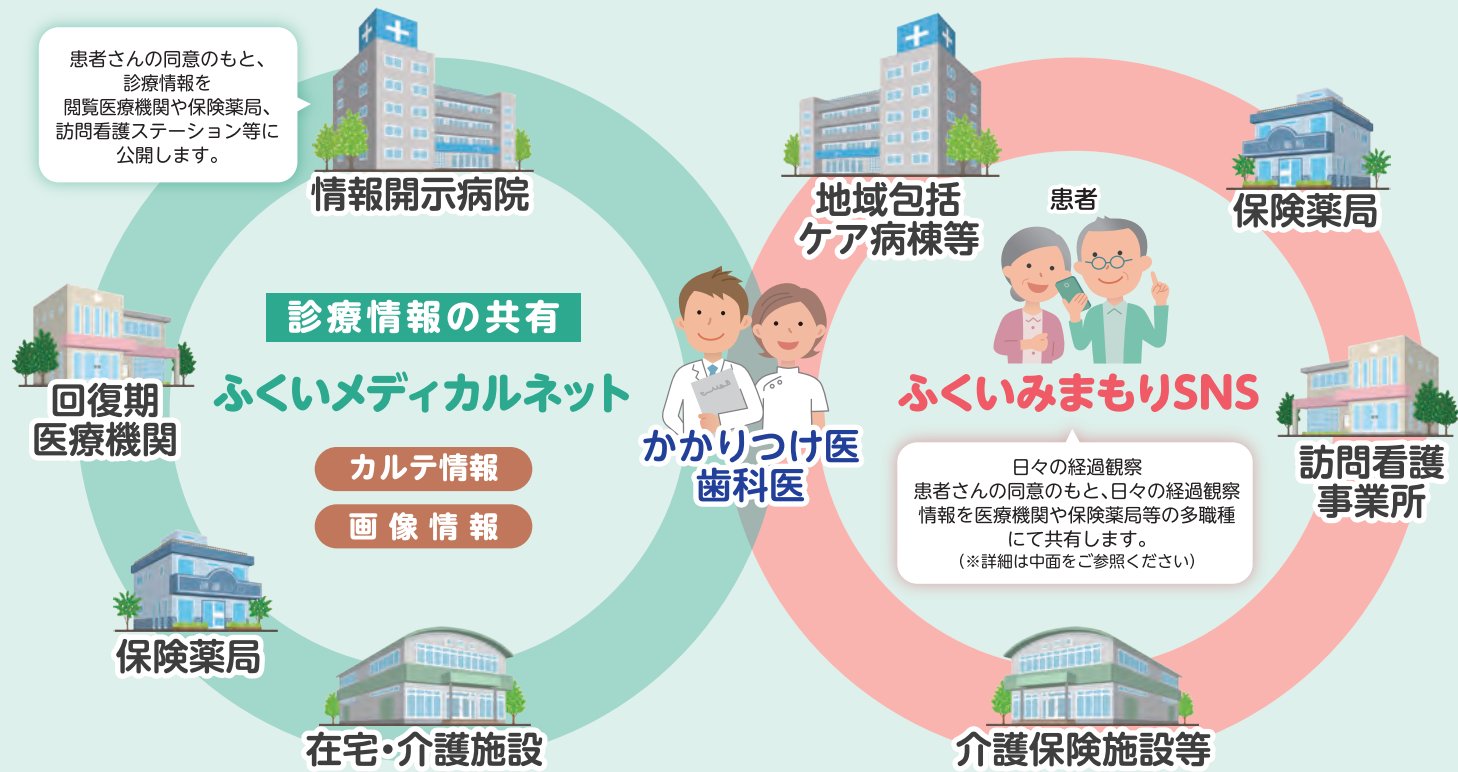
情報開示病院は、診療情報の開示に同意した患者さんの、カルテや画像等の診療情報を、閲覧医療機関や保険薬局等に対し公開します。また、在宅医療・介護での利用の際も同意した患者さんに限り、ふくいみまもりSNSを用いて多職種間での情報共有が可能になります。

医療連携

かかりつけ医が双方を繋ぎます

医療・介護連携
コミュニケーション

連携のために必要な情報は医療と介護では大きく異なるため、それぞれに適した2つのネットワークの併用がもっとも有効です。



* 情報開示に同意した患者さんの情報のみが公開されます。また、同意はいつでも撤回することができます。
* ふくいメディカルネットは各省庁のガイドラインに準拠したセキュリティを確保しており、外部からの不正アクセス及び情報漏洩などを防ぎます。

患者さんのメリット



県内の情報開示病院で受けた検査結果等を身近なかかりつけの医療機関・保険薬局等で閲覧できるため、どこに住んでいても良質で先進的な医療サービスを受けることが可能です。また、他の病院で受けた検査結果やお薬の内容などが有効に活用でき、よりスムーズに適切な診断・治療・服薬指導等を受けることができます。さらには、在宅医療・介護においてもかかりつけ医、訪問看護師やケアマネなどの多職種が在宅療養の情報を共有することができるため、地域全体から良質のサービスを受けることができます。

保険薬局のメリット



患者さんの受診歴、処方歴、検査等の情報を連携する情報開示病院から参照することにより、医薬連携が円滑かつ緊密になり、薬剤の重複投与や併用禁止薬剤の投与などを防ぐことで、より安全で質の高い服薬指導を一貫して受けることができます。

在宅医療提供機関



訪問看護
居宅介護支援事業所等

従来、電話やFAX等で行っていた情報共有の方法に、ふくいみまもりSNSの運用も行っています。訪問前、訪問中、訪問後に情報入力を行うことができるようになり、関係者間での情報共有が促進されます。更に患者さんを支えるチームの意識も高まることから、患者さんへの安心した在宅療養生活を提供することができるようになります。同じ内容の情報を複数の相手に一度に伝達する場合において非常に有効な手段になります。

機 関 一 覧

ふくいメディカルネット
情報開示病院

●福井大学医学部附属病院 ●福井県済生会病院 ●福井県立病院 ●福井赤十字病院 ●福井循環器病院 ●福井厚生病院
●坂井市立三国病院 ●福井勝山総合病院 ●公立丹南病院 ●杉田玄白記念公立小浜病院 ●市立敦賀病院 ●福井総合病院
●嶋田病院 ●春江病院 ●越前町国民健康保険織田病院 ●木村病院(鯖江市) ●林病院
●国立病院機構敦賀医療センター ●若狭高浜病院 ●木村病院(あわら市)

参 加 施 設

県内医療機関(医科・歯科)・保険薬局・訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等

令和6年7月 現在



福井県では、県内の複数の医療機関をICT(情報通信技術)を活用し、診療情報を共有するネットワークシステム「ふくいメディカルネット」を運用しています。

ふくいメディカルネットでは、参加する医療機関等が、投薬や注射、検査画像などの診療情報を共有、診療に役立てることで、病院・かかりつけ医・保険薬局等が一体となって、地域全体で切れ目のない質の高い医療サービスを提供することができ、また、「安心して暮らせる街づくり」を実現させる為には、在宅医療の推進と多職種連携が地域包括ケアシステムには欠かせません。

ふくいメディカルネットは「在宅医療と介護の情報共有」についても対応しており、在宅医療・介護に関わる専門職で必要とされる情報をシームレスに共有するためにSNSを用いた「ふくいみまもりSNS」の運用をしています。

「ふくいメディカルネット」

地域全体で患者さんを支えるシステム

ふくい医療情報連携システム運営協議会

(事務局：一般社団法人 福井県医師会) TEL (0776) 24-0387

ホームページ

<https://www.fukui.med.or.jp/fukuimedical-net/>



ふくいみまもりSNSとは

ふくいみまもり SNS の利用により、かかりつけ医、在宅医療の多職種、患者・家族が情報共有可能。在宅医療における見守り機能が強化され、情報連携をスムーズに行うことができます。



特長は、①多職種間でのSNS、②患者・家族を含むSNSと2本の柱にて運用しています。特に①では医療や介護の情報の取扱いも可能です。②では患者・家族の方も参加することで日常生活の気づき等の情報を多職種も含めて共有することができます。

ふくいみまもりSNSを利用することでのメリット

多職種と繋がる **連携情報と繋がる** **患者・家族と繋がる**

《3つの繋がる》を実現するため、スマートフォン等のデバイスを活用し、医療介護に関わる多職種間の情報共有を進め、連携を深めることが可能なシステムです。

申請方法等は《ふくいみまもりSNS》のホームページにてご確認ください
<https://www.fukui.med.or.jp/fukuimedical-net/sns/>

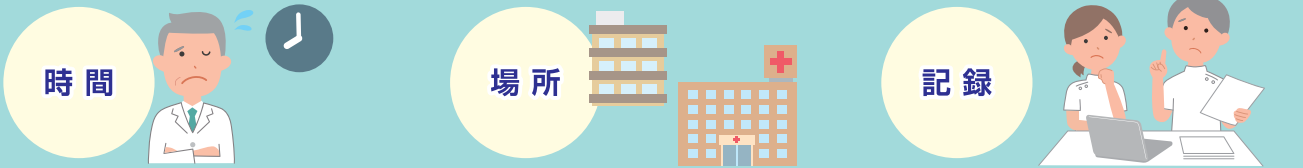
＜セキュリティ対策＞

- 高水準の安全・セキュリティ対策を施したデータセンターにて、SSL/TLS1.3による暗号化で安全な通信にて行っています。
- 一部の機能（従来の医療情報ならびにWEB会議）についてはVPN機能にて通信を行っています。

コミュニケーションで重要な点は？



医療介護連携において障壁となっている点は？



1対1でのやりとりでは情報は伝わらない
面会や会議は拘束される

そのために《ふくいみまもりSNS》を活用しましょう

ポイント1 簡便に利用できる

カルテの二重入力を避けるため、自施設の電子カルテ（紙カルテ）に入力し、それをカメラ入力して添付することで省力化できる。

ポイント2 業務上で使い慣れた機種が利用可能（使用端末を問わない）

本SNS機能は、スマートフォンやタブレット、またPCもWEBブラウザにて使用可能。なお、iPadやiPhoneは専用アプリ上で運用し、Android端末の場合は、GoogleChromeで使用可能。

ポイント3 スマートデバイス上において音声入力が可能になる

手によるタイプ入力のほかに、スマートデバイスでは端末の機能を用いて音声入力も採用し、スムーズに入力が可能になる。



USER VOICE

問題点を共有することで、その問題に対して医師、看護師、本人、家族がみんなで考えて、共通の方向に進むことが出来るので、その効果は大きい。
多職種は時間的、空間的にバラバラであるが、それぞれ自分の空いている時間にSNSの場で交流することが可能。多職種が一致して患者に向えば大きな効果を発揮することが出来る。

誰かが発信した情報を皆で共有できるのが良い。家族や医師に電話での報告をしなくてもすむ。
カメラ機能が付いており、わかりやすく報告できる。また簡単に掲載できることで時間短縮になる。
看護記録を掲載することで手間が省ける。
従来の方法より操作が簡単な印象がある。

先生とのやり取りがスムーズにできるのでとても助かった。

利用料

内科医療機関・歯科医療機関、保険薬局	1施設あたり 1,000円/月(税抜)
訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等のサービス事業所	1施設あたり 500円/月(税抜)
患者・家族、ヘルパー、民生委員	無料

●年間一括払い ●利用料は利用者単位ではなく、施設単位となります。
●ふくいメディカルネット(医療連携)に既に参加されている場合は本機能に対しての費用負担はありません。